

## 阿南高専における全学的教育改革の取組

独立行政法人 国立高等専門学校機構 阿南工業高等専門学校  
松本 高志・小松 実・山田 耕太郎・川畑 成之・太田 健吾

### 1 はじめに

本事業では、学修到達目標の達成をめざして客観的なデータとして学修成果を可視化し、データに基づく組織的な教育改善を目指している。本事業は、これまで実践してきた学内教員のFD活動と学生調査IRをベースとして、学生が知的かつ人間として総合的に成長できる仕組みを構築し、教員と学生がともに能力を開発しながら教育改善を実現するものである。

### 2 事業概要

本事業は、阿南高専にこれまでなかった全学で活用するLMS (manaba) をICT活用教育の基盤と位置づけ、①コンピテンシーの可視化、②ラーニング・ポートフォリオによる学修時間の確保、③教員のアカデミック・ポートフォリオ作成(AP)、ティーチング・ポートフォリオ作成(TP)、④学生調査IRの実施、の4つの取組を中心として事業を開始し、途中からコンピテンシーを可視化するばかりではなく、育成するためにアクティブ・ラーニングの取組も追加して推進している。

### 3 事業成果と課題

事業全体は順調に推進されており、大きな指標である学生の授業外学修時間は順調に増加している。事業の核としている各取組を継続・発展させながら持続的に事業を推進できた。「学修成果の可視化」において、特に「コンピテンシーの可視化」についてチャレンジした結果、学内におけるコンピテンシーの重要性の意識共有が醸成され、その育成にも積極的に取り組まれるようになってきている。

**①学生調査IRの活用（内部質保証の充実）** 客観的なデータとして学修成果を可視化し、データに基づく組織的な教育改善を推進した。IR戦略室を設置し、教学IRを本格的に推進し始めた。学修成果を把握する各種アンケート調査について、LMSを活用することにより集計が省力化され、フィードバックが迅速化された。

**②ラーニング・ポートフォリオの活用** LMS(manaba)をICT活用教育の基盤として活用し、学生の学修利便性と教員の教育効率を向上した。LMSについて職員も含めて全学での活用が普及し、学生はほぼ100%、教員は約8割が利用するに至り、総合的な教育改革が達成された。LMS普及によって、アクティブ・ラーニングとして反転授業、PBL、グループ学習等様々な形態の活用が増加した。また、学生は年度当初にLMS上で目標設定し、後期始めに中間振り返り、年度末に達成度評価を実施しており、自然にポートフォリオ活用に取り組むことができるようになった。

**③コンピテンシーの可視化と育成** 学生にコンピテンシーの重要性を動機づけると共に育成プログラムも実施している。正課授業、課外活動等の学生生活全般を考慮し、独自の評価ルーブリックを開発して活用できた。正課科目、正課外活動で獲得できるコンピテンシーと企業が求めるコンピテンシーを調査し、重要度の高いものを精査した。そして、学生が自己評価したコンピテンシーの結果を経年変化が確認できるようグラフ化し、LMSを介して学生へフィードバックすることができた。

**④アカデミック・ポートフォリオの活用** 教員の振り返りを促す実のあるFD活動として、アカデミック・ポートフォリオ (AP) とティーチング・ポートフォリオ (TP) 作成ワークショップを学内で毎年開催し、また他機関においてもワークショップを開催して他機関への展開も果たした。

### 4 おわりに

本事業の6年間の取組を通して、教員および学生の意識が変化し始め、社会の変化に応じた教育改革についての理解が進んでいる。また、これまでの取組は組織的に継続できる体制が整っている。